

回重ねエリア拡大

6月17日に
じょうえつバル街

上越市高田直江「酒」を楽しむ「じょうえつバル街」が6月17日正午から午前0時の飲食店を巡り「ほし」まで、開かれる。今回は妙高市新井市の飲食店15店以上

が初参戦する。チケッとは17日発売。前売り価格は5枚つりで3500円(税込)。ほっとステーション五番館(本町5)、上越市役所生協、フルサット(上越妙高駅西口)、道の駅あらい・くま野情報館ほかで販売する。参加店は喫茶店から料亭まで約70店。チケット1枚で飲み物と一緒にまみり品が提供される。

青空工房利用者3人の作品並ぶ。能生郵便局、糸魚川市、糸魚川市能生の小規模作業所「青空工房」が「能生郵便局」で開かれている。利用者3人の写真や油絵、アニメイラスト作品が並び、訪れた人の目を楽しませている。写真展は6月2日まで。展示作品は久保田栄さん(67)による夕日を題材にした写真、宝剣明さん(49)が描いた人物の油絵、室山成美さん(24)によるハンコを使ったアニメイラスト。それぞれ

の利用による作品展が「能生郵便局」で開かれている。利用者3人の写真や油絵、アニメイラスト作品が並び、訪れた人の目を楽しませている。写真展は6月2日まで。展示作品は久保田栄さん(67)による夕日を題材にした写真、宝剣明さん(49)が描いた人物の油絵、室山成美さん(24)によるハンコを使ったアニメイラスト。それぞれ

ひと

初めてとなる絵本「お蔵さま物語」を出版し、長野県諏訪市のSUIWAカラースの里の美術館での特別企画展(14日まで)で解説を行なう。精神的な活動を続ける。「日本神話を学ぶ導入になれば」と、小学校への絵本寄贈も予定している。

祖母が趣味にしていた日本画に興味を持ち、大学で日本画を専攻。糸魚川市の郷土史家、土田孝雄さんの著書「奴奈川

姫贊歌」の挿絵を描いたことをきっかけに奴奈川姫の世界を描き始めた。平成27年6月、姫と大國主命の息子・建御名方命を祭神とする諏訪大社や、同11月に大國主命を祭った出雲大社に作品を奉納した。

統的手法が、日本神話という題材にひたし資料の詳細を

の傍には研究、調

御名方命を祭る諏訪の地で奴奈川姫が

最初に作品を読んだ小学生の息子が、学校で習った日本神話の内容を思い出して納得していた様子を見て、地元の人承を大事に、分かりやすく子どもたちに知ってもらいたい。誰かが伝えていかなければいけないことと新たな目標を語る。

絵本はその後、上越市稲田のお茶の川崎園、同市本町4区春陽館書店、名立区名立大町のうみてらす名立で販売する。

来春には、糸魚川市京ヶ峰の玉翠園・谷村美術館での絵本展も企画している。

日本画家 川崎 日香 さん(39)



日本画の絵本を出版

祖母が趣味にしていた日本画に興味を持ち、大学で日本画を専攻。糸魚川市の郷土史家、土田孝雄さんの著書「奴奈川

いつ初めての取組みに不安を感じたが、「自然の素材から色を作って描く

域を中心に調べた伝承や歴史を基に、完成させた。これまで作品を使い、絵本としての上越。建

「母神様」として慕われていたことや、建御名方命を産んだ地である磐梯山(上越市五箇分)の存在、直江津の旧名諏訪津など「日本神話が身近になったと

に仕上がった。創作を経て実感したのは「神話の舞台としての上越。建

載せるなど、自身の集大成と呼べる作品

「母神様」として慕われていたことや、建御名方命を産んだ地である磐梯山(上越市五箇分)の存在、直江津の旧名諏訪津など「日本神話が身近になったと

に仕上がった。創作を経て実感したのは「神話の舞台としての上越。建

載せるなど、自身の集大成と呼べる作品

「母神様」として慕われていたことや、建御名方命を産んだ地である磐梯山(上越市五箇分)の存在、直江津の旧名諏訪津など「日本神話が身近になったと

に仕上がった。創作を経て実感したのは「神話の舞台としての上越。建

載せるなど、自身の集大成と呼べる作品

いつ初めての取組みに不安を感じたが、「自然の素材から色を作って描く

域を中心に調べた伝承や歴史を基に、完成させた。これまで

作品を使い、絵本としての上越。建

載せるなど、自身の集大成と呼べる作品

「母神様」として慕われていたことや、建御名方命を産んだ地である磐梯山(上越市五箇分)の存在、直江津の旧名諏訪津など「日本神話が身近になったと

に仕上がった。創作を経て実感したのは「神話の舞台としての上越。建

載せるなど、自身の集大成と呼べる作品

「母神様」として慕われていたことや、建御名方命を産んだ地である磐梯山(上越市五箇分)の存在、直江津の旧名諏訪津など「日本神話が身近になったと

に仕上がった。創作を経て実感したのは「神話の舞台としての上越。建

載せるなど、自身の集大成と呼べる作品